今月の読み物

「見たり、聞いたり、探ったり」No.265

通算 No.416

青　木　行　雄

「宝田明」さんの思い出

2022年（令和４）３月14日（87歳没）

11歳で終戦を迎えた混乱の旧満州で、侵攻してきたソ連兵に近所にいた女性が強姦される現場に遭遇して、自身も銃撃を受け、脇腹を被弾した。麻酔はなく、元軍医が焼いて消毒したはさみで傷口を切り開き、銃弾を取り出した。傷は後年もうずき続けた、今でもあの時の事は強烈に思い出されると会合の自己紹介で何回か聞いたことがあった。

縁あって年２～３回お会いしていたが、義理、人情の深い方で、贈り物をするとかならずお返しがくる。私の紹介で名刺を交わすとサイン入り色紙を返してくれたとよく聞いている。この１～２年コロナ禍の中、お会いは少なかったが、安否は電話でとっていた。2022年３月10日に新作映画「世の中にたえて桜のなかりせば」の舞台挨拶に車椅子で出席し笑顔を見せていたという、昨年の11月お会いした時には腰が痛いといい、立つのに苦労のようで手をささえた事も何回かあった。

名刺を交わした方へお礼のサイン入り色紙を送る宝田明さん。最近のもの。

新木場にも何回か来られ、東京木材市場や、鴨川商店にも立ち寄り、木材に大変興味のある人だった。

新木場の鴨川商店へ行った時の写真で今の会長、社長に宝田夫妻と私

新木場、東京木材市場社員の皆様、急におつれしたので社長は不在だった。ずばぬけて長身の宝田さん、183cm

「幸月」のふぐ料理、「中じま」のステーキも食し、同席した業界の方も何人かいる。身長が183cm、と高すぎて、時代ものの映画は使ってもらえないと本人がいっていた、日本の家屋は長身の宝田さんには向かず、チャンバラには刀が鴨居や天井にあたり、使えない等冗談話もよく聞いたものだ。

最後に我が社にこられた時、新木場にミュージカルの練習場が欲しいと探していた。夜中に使う事も多いので夜は人が少ない新木場に目をつけたようである。お役には立てなかったが、亡くなるまで芸の道に生きた人であった。

ハルピン引揚者の人と談話する宝田さん、他の皆さんと私

ある会合でお会いして新木場へ迎える話に花が咲く。「テーブルの天板がほしいと」

皆様の了解を得ずにのせてもらいました。申しわけありません。「宝田明」さん（右端）
腰負傷にて座椅子をを使用しています。私のお世話になっている皆様です。深川の「幸月」にて

来社の時靴をはく時、手と肩をそえて

急に来社して、在社の社員と事務所前にて集合写真（この時社にいた社員と気軽に受けてくれた）

私との出会いを紹介すると、

今から35年程前、私の所属する、「東京アサヒ会」という会があり、この会は毎月第３木曜日に会合はあるが、大変ユニークな会である、誕生月の人に誕生祝を前に出て皆さんで「ハッピーバースデー」を歌いお祝いしてくれて、お祝い品は焼酎１本。歌に始まり、歌に終わる、ストレス解消のすばらしい会で45年続いている。この会にハルピンから引揚者の同期がいて時々４月29日生まれの宝田さんは出席していた。

「東京アサヒ会」の会合で誕生祝をしている所、同じ４月生れの面々。１人１人ハッピーバースデーを皆で歌いお祝いをする。宝田さん、右側

私の所属する「東京めじろ会」に来会、宝田明さん来て挨拶する。右側の端に落語家「桂文治」さんも見える。

「東京めじろ会」に参加の宝田明さん。右側にアフリカの「サンコン」さんも参加、ステージは歌手の「港あけみ」

この写真は３年程前コロナ前の４月に参加した時、参加者全員のショットである。すごい思い出の写真となった。

東京アサヒ会令和元年（コロナ前）４月例会、中央「宝田明」さん

宝田さんの来歴を追ってみた。

父は技師であり、越後国村上藩の末裔で朝鮮総督府で海軍武官を務めていた祖父の勧めで朝鮮総督府鉄道に勤務した。６人兄弟、兄は３人いる。２歳の頃に父が南満州鉄道（満鉄）に転勤のために満州に渡る。戦後、12歳でハルピンから引揚げる。本籍のある新潟県村上市大工町の菩提寺・善行寺で２年間暮らし、本町小学校、村上中学校に通う。

1953年（昭和28）東京都立豊島高校卒業後に東宝ニューフェイス第６期生として俳優生活をスタート。同期には、河内桃子、岡田眞澄等がいる。同年映画「かくて自由の鐘は鳴る」でデビュー、翌年、特撮映画の金字塔である「ゴジラ」で主演、長身・美形の二枚目俳優として東宝映画の若手トップスターとなり、数多くの映画に主演、全盛期には連日連夜、銀座に繰り出し夜遊びに精を出したこともあると云っていた。

1959年（昭和34）の日本人初のミス･ユニバースの栄冠に輝いた児島明子氏と1966年（昭和41）４月29日（宝田32歳の誕生日）に結婚し、1974年（昭和49）１月の次男誕生まで２男一女をもうけたが1984年（昭和59）に離婚している。

1960年（昭和35）代は、東宝と香港のキャセイ・フィルムとの合作映画（香港の夜）で香港の女優・ユーミンとコンビでアジア地域で絶大な人気を博した。

映画「ゴジラ」「獣人雪男」「モスラ対ゴジラ」等約200本の映画に主演する。

映画斜陽期以降はミュージカルの世界にも活動の場を広げ、日本におけるミュージカル俳優の草分け的存在として活動した。

1980年（昭和55）に中野区江古田に日本初のミュージカル俳優養成学校「宝田芸術学園」を開校するも、1983年（昭和58）５月末で閉鎖となった。

俳優活動以外にも、ミス・ユニバース日本代表選出大会では1991年（平成３）まで司会を担当している。

2016年（平成28）６月10日、政治団体「国民怒りの声」より、第24回参議院選挙の比例区候補として立候補することが公表されたが、１週間後の17日には立候補を取り止めている。

ゴジラシリーズでのエピソード

初主演作の「ゴジラ」の撮影初日に撮影現場で「主役の宝田さんです」と紹介したところ、「主役はゴジラだ」と怒られたというエピソードも有名である。

しかし円谷英二氏から、「主役だから頑張りなさい」と言葉をかけられたこともある。

「ゴジラ」の内容については、核兵器を作り出した人類への警鐘であると受け止めており、ゴジラが死ぬ場面には涙したという。

父・宝田明さんの一人娘、歌手の「児島未散」さんが、追悼文を出した。全文を記したい。

2022年３月14日　父　宝田明が永眠いたしました
本日３月18日お別れをして参りました
父の首元には沢山のお花と共にミニゴジラが寄り添っていました
今落ち着いた気持ちで言葉をしたためています

今朝（３月18日）ニュースを観て父のためにご丁寧なお悔やみを下さいました皆様、連絡をくれた友人たち　先輩アーティストの方々や仲間、お仕事関係の方々　また父を長く応援下さった皆様からのフォローを頂きまして、誠にありがとうございます

皆様へ　この場をお借りしましてお礼と感謝を申し上げます

父のことを封印していた訳ではありませんが、ほとんど話題にしてこなかった私が、こんなふうに父のことを語らせてもらえる日がくるとは...　感慨深いです

最初で最後...　かもしれませんが、父とお別れした今日この日、皆様からのお心遣いにお返しさせて頂きたく“父”の顔とは別の“映画人”“ミュージカル俳優”として　また芸能界の大先輩であった宝田明を観ていた私の想いを、少しお話しする時間にさせていただけますと幸いです

私が小さい頃

父は家のあちこちで自分が演じるミュージカルの歌をよく練習していました
その響き渡る歌を聞いているとなんだか擽ったく　心が躍りだすみたいに嬉しくなったことをよく覚えています
父の仕事部屋に忍び込んで　台本を盗み見することも　父のミュージカルを観ることも大好きでした
楽屋で母が手伝う後ろをちょこちょこ飛び跳ねていました
客席の端っこにいつも家族席があり、見えづらい時は椅子を上げた所に座りキラキラした歌やお芝居に吸い込まれていきました
とびきり印象的だった舞台が“マイフェアレディ”“南太平洋”

父がとても大きく別世界の人みたいに見えて　小さいながらなんともせつない気持ちになったものです

そういえば　あんなに長い間父と時間を共にしたことはなかったかな...、１ヶ月程一緒に中国訪問した時のことでした
父はホテルの部屋でテレビを観ながら　画面に映る人たちの表情を見ては顔を顰めたり声音を変えて

みたりクシャクシャモゴモゴ　鏡を見ながら真似をしていました

　それはまるで子供が真似るみたいに熱心に繰り返し繰り返し
“こんな場面ではこういう表情をするのか”“面白いな人間は”と呟きながら

　壮絶な幼少期を生き抜き、映画人　ミュージカル俳優になり　仕事に対してそれは厳しく研究意欲に尽きず　とてもとても努力の人
　どこまでも学びの人だったのだな～と
　私が歌を歌いたいと思ったきっかけはと問われた時

　ピンクレディーのお二人やユーミンさん松田聖子さんや竹内まりやさんが大好きだったからとずっと話していました　もちろんこの気持ちに嘘はないのです　　ですが...

　本当は努力の先に舞台に立ち自身の人生を綴り重ねながら演じていた素晴らしい父の“歌う姿”に憧れていたからだったんだ！と　今日父の穏やかな顔を最後に見送った時　湧き上がった心の叫びにグシッと気付いた驚きに
　ただただ涙が溢れ出ていました

　そうそう！裏話をひとつ！

　家に友達が遊びに来た時にパンツ一丁で　おう！いらっしゃい！と出てくる父が大キライでした、あれっ？これっておとーさんあるある...

　もうひとつ

　うちの家族は宝田家児島家共に先祖代々からみんな声がデカい！良く通る！どこにいてもすぐ話し声でわかっちゃう、ある意味マイク要らず！笑々、孫の代まで見事に引き継がれております　笑々
　どうかこの先
　映画館や劇場に足を運ぶ機会がありましたら、父のことをほんの少しだけでも思い出していただけましたら...　きっと父は飛び上がって喜ぶだろうと思います

　父を応援してくれたみなさまへ
　私を心配してくれたみなさまへ
　心を温かく支えてくださりありがとうございます
　私も父に恥じないよう　私らしく丁寧に柔軟に歌を歌いお届けしてゆきます
　父、宝田明　は私の中で永遠に輝くスターです！

ありがとうございました。

戦後の混乱に巻き込まれ、旧ソ連兵に撃たれ、九死に一生を得た経験のある宝田さん、60歳を過ぎた頃から講演活動もしており、戦争体験も語りながら、亡くなる直前、ロシアのウクライナへの侵攻に自分の体験もあって大変イカリを感じていた。「戦争を止めるのは私たちの力」と強く発言があったという。
2022年３月14日午前零時31分、肺炎のため東京都の病院で急死した。

若手俳優達の為に新木場に「練習場」をお世話出来なかった事が大変心のこりとなった。

2022年３月27日　記

参考資料

日経新聞
朝日新聞
東京新聞
ウィキペディア